

令和4年8月18日

産業厚生委員会記録

阿久根市議会

- 1 日 時 令和4年8月18日(木) 午後1時58分開会
午後3時28分散会
- 2 場 所 第1委員会室
- 3 出席委員 白石 純一 委員長、中面 幸人 副委員長、
川上 洋一 委員、竹原 信一 委員、木下 孝行 委員、
山田 勝 委員、濱崎 國治 委員
- 4 事務局職員 議事係主査 東 岳也
- 5 参考人及び補助者
参考人 石川 秀和 氏
- 6 会議に付した事件
所管事務調査について
- 7 議事の経過概要 別紙のとおり

議事の経過概要

○ 所管事務調査

白石純一委員長

ただいまから産業厚生委員会を開会いたします。

初めに所管事務調査を議題とします。

本日は、6月17日の委員会で決定したとおり、市街地の活性化に関連し、現在の活動報告と意見交換として、株式会社まちの灯台阿久根の代表取締役、石川秀和氏を参考人として呼びしております。

石川氏からプロジェクターを使用して説明したいとのことですので、あらかじめ御了承ください。

今回呼びした参考人、株式会社まちの灯台阿久根代表取締役、石川秀和さんに御出席いただいております。参考人におかれましては、大変お忙しい中、本委員会の調査のため御出席いただき誠にありがとうございます。委員会を代表して御礼申し上げます。今回、参考人には、本委員会の所管事務調査項目である、市街地の活性化に関連し、現在、行われている活動の報告と、委員との意見交換ということでお願いしたところ、当初7月22日に開催予定でしたが、議会側の都合で本日に変更し、快く引受けていただきました。感謝申し上げます。

参考人に発言についてお願い申し上げます。発言される際は挙手をしていただき、私から指名を受けた後に発言をお願いします。また、委員会記録作成のため録音しておりますので、発言される際はマイクに近づいて発言されるようにお願いします。

それでは、参考人に説明を求めます。お願いします。

石川秀和参考人

石川です。よろしくお願いいたします。

本日は大変忙しい中、お時間を取っていただきましてありがとうございます。私のほうも、まちおこし会社という形のを運営しておりますが、4年目に突入しまして、まちおこしができていない自分に不甲斐なさを感じる日々でございますので、その中で、今月末には、総合戦略検証会議というものがまた開催されるのですが、私もそこに出席予定ですが、それに参加する上でも、市議の皆さんのお話も参考にして、我々の会社自体の今後の運営も、まだ迷いがたくさんありますので、今日、活発に意見を交換して、今後の活動方向に生かしていきたいと思っております。

ですので、近々の活動につきまして、それから私が預かっております地域おこし協力隊の活動なども幅広く、概要を御説明させていただいた上で、質疑の時間を取れたらと思っております。よろしくお願いいたします。

では、iPadのほうに、参考資料をお送りしておりますが、頭のほうから、地域おこし協力隊の活動1というところから、御説明していきたいと思っておりますので、まず地域おこし協力隊活動1のリンクのタッチをお願いいたします。

地域おこし協力隊の活動ページですが、今現在、我々で地域おこし協力隊を4名預かっており、2名が体験型観光推進業務、もう2名が雇用促進を担当する、元鶴翔高校生の卒

業生2名で活動しております。ですので、今のフェイスブックページをスクロールしていただきますと、8月のアクティビティ、カレンダーが載っていると思うんですが、今ですね、オンシーズン、海遊びのオンシーズンですので、海遊びは脇本、牛之浜、大川などで、シーカヤック、サップの体験プログラム、体験商品を販売しておりますが、2名の協力隊に對しまして、7、8月で約120名ほど、県外から、県外を中心とした家族連れ、御友人連れのツアーの御利用の予約が入っております。これは1回につき、3名から5名ですので、コロナにも対応したタイプのツーリズムを行っております。大体7月、8月で120名ほどの利用者になっております。

左上の戻るを押していただいて、2番目ですね、地域おこし協力隊の活動2ですが、こちらをタッチしていただきますと雇用促進の担当のページになりますが、こちらは、それぞれ会社訪問をしながら採用情報の発信を行っております。今、なぜこれをしているかと言いますと、阿久根の地域の企業がこれまでどのように採用情報発信してきたかと言いますと、出水のハローワーク中心に情報発信をしたのですが、どうしても、この記事見ていただいたら分かるのですが、経営者の顔であったりとか、仕事の内容、それからそのほかの魅力みたいなものが情報発信できなくて、ハローワークの情報の見え方だと、給料とか休日の多さというところではお仕事が選べないということがありまして、阿久根だけのですね、これ実は来年度、再来年度以降にもう少し拡充しまして、阿久根だけの会社のハローワークページと言いますか、もう少し会社の内容が分かるもの、分かるホームページみたいなものをつくる準備をしまして、そのために情報収集をやっているのですが、現状としましては、1社1社訪問しまして、取材をして記事を書くということを行っております。ですので、この隊員は今年の4月にスタートしていますので、今そういった状況で1か月に1社ぐらい記事を上げてもらっている状況です。実際これ上げて、こもれば農園さんとかは従業員が見つかっている実績にもつながっているようです。ですので今、現状としては2チーム分かれて、体験型観光の普及促進と若者の雇用促進というところで活動中でございます。

また、戻るを押していただきまして、次が、私が担当しているものですが、鎌倉の鮮魚店プロジェクトというものを現在進行中でやっております。これは、スクロールしていただくと分かるのですが、鎌倉の高齢化率40%を超える、80年代につくられた住宅街があるのですが、そこに移動販売も行う鮮魚店をつくる、阿久根の魚を売る、鮮魚店をつくるプロジェクトを進めています。分かりやすく言いますと、小さなアンテナショップ、阿久根のアンテナショップが鎌倉にできるというのですが、阿久根のメリットとしては、阿久根の水産物を中心とした特産品が年中販売できるようになります。鎌倉と共同のプロジェクトなのですが、これ2017年からやっています、そのイベントが、だんだん盛り上がって、実店舗をつくることに至ったのですが、鎌倉のほうのメリットとしては、鎌倉市の中では、高齢化率が高くて、いわゆるシャッター商店街、スーパーが撤退した場所になりますので、買物難民も非常に多くて、魚に対するニーズも高いエリアでしたので、そこに我々の鮮魚店ができるということが非常にマッチングとしてよかったと。実は鎌倉は海の前なのですが、仲買人組合がもうなくて、水産業としてはかなり衰退しきっているエリアです。それに対して、こちらの所得のですね、平均所得の倍ぐらい、倍以上の方が住んでらっしゃいますので、魚を3倍ぐらいの値段でつけても全然安いとって買っただ

けている状況です。これは11月のオープンに向けて、先日、クラウドファンディングを行いまして、800万円ぐらい御支援、関東阿久根会さんにもかなり寄附していただきまして、このぐらいの資金を集めることができました。

大体、開業まで1200万円ぐらい調達しようと思っっているんですけども、このぐらいの資金があれば、銀行さんからも、借入れがしやすいので、非常に助かるなと思って、今、着々と準備を進めています。

これは、ちょっとどこまで進んでいるのか、私、分からないんですが、私が協力隊のときからスタートしたプロジェクトなのですけども、現在、鎌倉市と阿久根市、自治体間で、何て言うのですかね、地域連携協定と言うのでしょうか。何かしらの、都市間の提携をして中期的にですね、取組をやっていこうということになっているようです。

その次、戻っていただきまして、これは、また見ていただきたいんですけども、今日、まちおこしに関するお話をということでしたので、ゲストハウスとまちぐるみ旅館っていうテーマで、3つほど記事を、シェアさせていただきました。これまた時間あるときにじっくり見ていただきたいのですが、1番のほうは、塩屋ホステルさんのレビュー、口コミのところの記事ですね。このクチコミのところの記事に、ホテルがどういうところがよかったとか、阿久根はどこがおもしろかったとか書いてあって、観光戦略を考えると、僕は結構重要な意見だなと思ってよく見えています。これブッキングドットコムという、いわゆる旅館を予約するサイトですけど、この9.5っていう得点は、異常に高くて、なかなかこの評価点は、普通はいただけないです。ゲストハウスが面白いところというのは、設備が整っているから、お料理がおいしいから高得点ということでもないのです。イワシビルもゲストハウスですし、塩屋ホステルもゲストハウスなのですが、イワシビルで年間900人ぐらいの方が来られますが、塩屋ホステルも人気で、この9.5という口コミをいただいております。温泉がよかったとか、食事がよかったということが書いてあるので、またこれ時間あるときに見てみてください。

戻りまして、2番目はイワシビルの記事で、ロックスインに泊まっても、こういうふうには宿泊者が、ブログで情報発信したり、いわゆるSNSで情報発信してくれるってことはまずないのです。イワシビル、塩屋ホステルっていうのは、この記事みたいに、阿久根駅に行って、大根行行って、何々食べてっていうのを勝手に発信していただきます。我々日頃、阿久根に住んでいて、友達を呼んでも、どこ連れていか分からないって迷うことが多いんですけども、実際、宿泊に来られた方は、それなりにいろいろ回ってですね、楽しんでいただいているっていう状況がありますので、この辺も観光動線を考える上で、どうしても我々が仲間内で固まってしまうと、史跡名所だったりとか、わりとベタなところを中心に観光動線を考えてしまうのですが、身近なところに面白いものが落ちているよということがよく分かる記事なので、また時間あるときに若い観光客の目線で見ただけならなと思います。

戻っていただいて、その次の資料も非常に面白くて、まちぐるみ旅館さんですね。これ、まちぐるみ旅館としているのは、ゲストハウスが泊まる機能しかないので、朝御飯も昼御飯も夜御飯も、そのほかの買物とかも全部、まちに出てやらなきゃいけないので、皆さんいろいろなところを回って、観光を楽しむので、まちぐるみというふうにしています。3番の記事が、きみよし温泉から確か始まるんです、後のほうか。実は、イワシビルに泊ま

るお客様は、スタッフのお勧めで、きみよし温泉に行かれることが多いそうです。きみよし温泉、大利根かな。それはなぜかというスタッフに質問するので、そこをお勧めされるそうです。この記事の中にもありますが、秋野染工さんで予約をして、染め体験をして、きみよし温泉に行って、ぼんたんサイダー飲んで、イワシビルに泊まるっていうことをされているカップルの記事が書かれています。そういった小さいところを組み合わせると、阿久根でもまだまだ面白い観光ツーリズムが出来るよってという記事になりますので、この辺もまた写真もすばらしいのでぜひ見てみてください。

その次が、ちょっと私の、皆さんとちょっと共有したかった、阿久根以外のところの話なのですが、私の活動のところを少しお話しさせていただきますと、柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社というところの、私が今、阿久根のまちの灯台阿久根という、まちおこし会社のほかに、岐阜市内の中心部の商店街なのですが、柳ヶ瀬商店街のほうのまちおこし会社の取締役もさせてもらっています。ここはもう10年前ぐらいからお付き合いなのですが、そのほかにも、またこの後説明するのですが、唐津市のほうでもまちおこし会社の役員をさせてもらっているのですが、それを何でやっているかっていう理由なのですが、別々の課題があるまちの状況を勉強させてもらうことで、阿久根で何か問題が起こったときに使えるアイデア、使える事業みたいなものを吸収したくて、一応、阿久根を中心にしてはいるのですが、今、岐阜と唐津でもまちおこしの会社を、一応籍を置かせてもらっています。岐阜のほうは、ものすごく巨大なシャッター商店街があるのですけれども、それも10年前からシンプルに空き店舗率をどれだけ解消できるかという取組をやっています。ここに出ているのですが、サンデービルディングマーケットという、アーケード付の商店街の中で月に2回、マルシェをやり続けています。それが功を奏しまして、年で1%とか、0.何%なのですが、店舗に新しい、若い方の出店が増え続けている状況です。これは、なかなかちょっと阿久根では使えないアイデアなのですが、一応そういった空き店舗を解消する取組もさせてもらっています。要は、毎月定期的開催するマルシェに出展することで、その場所に愛着を覚えるとともに、お客さんをつかまえてから店舗を借りましょう。という取組をやっています。

それから、次になりますが、戻っていただきまして、まちおこし会社のほうから、岐阜のまちおこし会社のほうにオーダーいただいて、これも定期的に参加しているお仕事なのですが、瑞浪市というところの7年後にできる道の駅のプロジェクトも、今、担当させてもらっています。これが、僕は実は阿久根のほうに生かしたいなと思っているプロジェクトなのですが、人口は阿久根ぐらいの町で、名古屋市から飛騨高山のほうに抜けるバイパスの途中に出来る道の駅なのですけれども、要は、まだ基本構想も何もないのです。ただ、瑞浪市としては、もし道の駅が出来ても、そこに入店してくれる地元の出店者もいないし、特産品もないし、道の駅が突然出来ても活性化しないだろうという、自信があるんですよ、市長さんとしては。だから、今から本当にその住民にとって、まちおこしできるような道の駅をみんなで考えていこうということ、今の段階から、やっています。例えば、オーガニックの野菜を売る売場をつくりたいということで、今から、野菜の生産者さんを増やすような畑をつくるようなところから始めたり、パン屋さんが欲しい、クラフトビールのお店が欲しいっていうことを最初にディスカッションして、クラフトビールの会社が、今からもう準備を始めたりということをやっています。僕、今、道の駅阿久根をさせても

らっていて、実は、あんな小さなお店なのに、阿久根だけで、阿久根だけの商品を置くのに苦勞するのです。そんなにおいしいお菓子もないし、そんなに、何て言うかな、これを言ったら怒られるんですけど、そのB級グルメだったり、珍しいお菓子だったり、あと野菜、大川地区、特に脇本と違って農地が少ないので、高齢化もして、だんだん皆さんそのお店に足を運ばなくなってきていて、売るのが結構、出すのに悩みます。これ垂水の道の駅に行くと分かるのですけれども、最近出来た道の駅ですけれども、僕らが見るとすぐ分かるのですが、垂水もほとんど置いてないのですよ。いろんな地区の、どこにでもあるようなものが置いてあるし、挙げ句、地元の人に、恐らく、出店して欲しかっただろう場所が、募集しても多分来なかったのでしょうね、ドクターフィッシュっていうあの、水の中に魚入れて角質取らせる、お祭りの露店とかでやっているようなものが出ていたりするのですが、ああいうふうになってしまいそうな予感を、新しくもし道の駅が阿久根できる場合、なりそうで怖いなと思っていて。とはいえ、後5年とか7年とか阿久根もあるので、できれば瑞浪市のように、今からどんな道の駅をつくっていくか、誰がそこに出店できるのかとか、どんな食堂、どんなレストランができるのかとか、どんな商品を並べるのか。例えばですけど、今から道の駅ができるということが決まっているのであれば、毎年毎年特産品コンテストを今からやっていって、その優秀な生産者さんは、優先的に新しくできる道の駅に並べられますよみたいなことを今からやっていけば、準備する時間としては有効に使えるのかなと思うのですけれども、ある日突然、大きな箱ができてしまうと、恐らく売場に商品を並べるのに非常に苦勞するのではないかなと懸念しています。こういった私も外で勉強していることを阿久根で使えたらなと思っている次第です。

戻りまして、もう1個は唐津のほうですね。これは、7月26日に最近発表されたのですが、これも阿久根でノウハウが出せたらなあと思っているのですが、最近やっと発表できるようになったのですけど、佐賀県庁の仕事で、港湾地区のリニューアル計画を私のほうで担当させていただきました。予算がつきまして、国体の関係ではあるのですが、来年度から改修工事をしていくのですが、ヨットハーバーとして使われていたエリアに新しい価値を提供して、なおかつ観光にも使っていこうというプロジェクトを担当させてもらっています。基本構想を書きまして、今後そのプロジェクトが実際に着地するようにアドバイスしていくというのが我々の担当になります。ヨットハーバーの前が玄海国定公園の一角で、マリンスポーツのメッカになっています。これは阿久根にも言えることなのですが、今、実際に地域おこし協力隊が2名、阿久根のきれいな海で、先ほど言いましたけど7月、8月、100名以上の方が遠方から、遠くの方でしたら大阪の方もいました。来られているんですけど、実際、更衣室とかシャワールームが脇本以外はないんです。夏場は海の家がありますので、脇本は海を家のシャワーが利用できるのですけれども。なかなか、サップとかカヤックをやる場合に、牛之浜漁港で海に入ることが多いのですが、更衣室とかシャワーがなくて、タンクに水を入れて簡易シャワーみたいなことをやるのですけども、牛之浜にはまだトイレがあっというぐらいで、整備されてない。そうすると、なかなかリピーターにつながらなかつたりするのですが、佐賀県唐津市もやはり同じような状況がありまして、それを補うのに、拠点を1個中心部につくりまして、そこに向かって送迎を、ハイエースみたいな車で送迎して、ここから出発していろんなところ行くと、戻ってきてここでシャワーが浴びれたり、女性だったらメイクができたりするようなことを、

もともとある施設を改修することで、準備していこうかなと思っています。僕が阿久根に来てからずっとあったらいいかなと思っているのですが、やっぱり海っていうのは非常に観光にとってですね、大事なピースでなかなか諸事情があって前に進まないというふうに言われているのですが、やっぱり旧港ですよ。いつか旧港の付近を阿久根の観光のために使えるようなことになれば、大きく薩摩川内、出水、長島の中では、大きく前に出れるのだらうなと思いつつ、いろいろな事情があってあそこには手をつけられないということを知っているのですが、一方で、大の大人が10年20年かかってできないことってあるのだらうかというふうに思っていました。何とか、活性化のピースとして使えないかなと。ここにある大きな駐車場をこういった海が見えるバーベキュースペースだったり、マルシェができるような、仮の屋根付きのスペースにする予定で、今計画しています。こんなことを、唐津でさせてもらったりして、それは阿久根に使えるようになればなと思いつつやっている仕事になっております。

一応、最近の活動の報告としては、ざっくりなんですけど、そういったことを同時進行で、やっている状況です。私、今日、エプロン着てきたんですが、個人としては空き家を改修しましてコーヒー屋さんを駅前を始めましたので、ぜひ一度は来てください。

あとですね、今年は大川中学校の利活用のワークショップをうちの会社で担当しましたので、半年間かけて、まだその予算のこととか全然決まっていなみたいなのですが、利活用を市民参加型のワークショップをすることで取りまとめをして、何らかの形で資料として役場に提出しようと思っています。まちおこしとして、いろいろ課題はこれをしなきゃいけないなということは思っているところあるのですが、取りあえず1度、ここまでお話を1回閉じて、後は御質問もあると思いますので、御質問受けながらお話できたらなと思います。はい、ありがとうございます。

〔発言する者あり〕

白石純一委員長

参考人の説明が終わりましたので、これより質疑を行います。

中面幸人委員

貴重なお話をありがとうございました。すごく石川さんはタフだなと、本当に今日、感じましたけれども、阿久根のことについて、先ほどお話も出ましたけれども、やはりやっぱり海ですね。海と海のレジャーとを結びつけた観光というか、交流人口を増やす取組を、私はやっぱりしたほうがいいのではないかなと思う中で、例えばいっぱいあるんですね、海水浴場も大きなのが3つあるし、さっき言われたように、例えば地域おこし協力隊が来て、いろいろ戦略を練っても、なかなかさっき言われたようにカヤックをした後にシャワーがないとか、そういうのもう本当、次りピーター来ないというふうに。そのとおりでと思いますので、やはり石川さんから見て、どこかここなら将来可能性があるというところを、もう目星をつけて、そこに予算化してもらったらどうですか。その辺はもう、何か今、いろんな考えがあるけど、やはり本当、もう5年、10年とかかかる気はするし、やはりどっか1本に将来性があるところを1か所でもう予算化して、モデルみたいにつくったらどうかなと思っているんですけど、その辺を石川さんはどう思われますか。

石川秀和参考人

地域おこし協力隊の仕事というのが、やはり実験までなのですよ。その観光に関して、

阿久根の価値を見出して、それに対してお客さんが、お客さんのニーズがあるかどうかまでの実験は、3年間の任期の間にできると思います。ですので、実際に今、御存じかわからないですけど、僕らの世代の時からやり出したのですが、大川の川遊び、リバートレッキングというツーリズムがありまして、親子で参加して、上流から下流まで川を溺れないようにライフジャケットを着て、親子で川をじゃぶじゃぶしながらエビを獲ったり、ちょっと飛び込めるスポットがあるので、飛び込むようなことをやって遊ぶツアーが、半日で5000円とか6000円でさせていただいて、それは結構人気なのですよ。そういう既に阿久根にある自然資源を使って、遊びを開発するということまではできますと、このぐらいの利用者がいてこのぐらいの料金で参加してくれますっていうのはリサーチはできるんですけど、それをそこに対して公的な資金を入れて、阿久根の魅力としてブランド化していこうって話になる場合は、やっぱり行政のお金が、行政のお金といいますか、その指針と予算がないとできないと思っていまして、観光戦略を考える上で、僕は1番よくないなと思うのはゼロベースで、今この町に存在しないものに対して予算投下して、ゼロから始めるというのは1番リスクがあると思うのですね。そうじゃなくて、今既に阿久根に対して、例えば海でしたら釣りとか、冬のサーフィンというのはもう我々全然予算かけてないのに、勝手にお客さんどんどん来ているわけじゃないですか。そこに対して、既に芽が出ているところに対して、より予算をかけてお客さんの満足度を上げていく。満足度を上げることで、よりお客さんが集まるというような考え方をしていくべきかと思います。釣りの方とか特に、この前も話をちょっとする機会があったのですが、捌ける場所が欲しい。持ち帰るときに、家に帰って奥さんに怒られるらしいのですよ、家のキッチンで捌くと。なので、そういう捌く場所があれば阿久根にもっと集まるのではないかなとか。お父さんが釣りしている間にお母さんと子供が遊べるような公園が、もう少し釣り場に近いところであればいいとか。サップの話、カヤックの話ですとやっぱりシャワールームとか、全部の港にある必要はないですけど、どこか一つに道具が借りれて、海遊びの観光案内所みたいなものがあれば、やっぱりほかのまちにはないんで集まるなというふうには僕も。

中面幸人委員

それと、私は石川さんのこのサイトを見て感じたことは、やはり今、最初、地域おこし協力隊として来られて、一陣で来られて、もう今は5陣目かな、なっているのだけでも、石川さんは根づいて、法人を立ち上げてされている中で、例えば今、地域おこし協力隊もまちの灯台が引受けているというか、今まで3年間やってきたことに対して、また引き続きやれるということは、そこはやっぱり石川さんがちゃんとして、いわば元締めのことをされて、これは私はいいなと思っておりますので、今後これがそういう石川さんの考えが、しっかりと阿久根のこういう事業、観光事業につながっていくのではないかと考えておりますので、その辺を引き続き、やっぱりやって欲しいというふうに感じます。

白石純一委員長

意見でいいですか。

〔中面幸人委員「そこら辺をもうちょっとお聞かせ願えれば」と呼ぶ〕

石川秀和参考人

ありがとうございます。実は、ちょっと相談と言いますか、ありまして。今年、地域おこし協力隊、今、募集する予定が、現状、募集中が観光課で1名、この後、募集予定が企

画調整課で、空き家バンク担当が1名控えていると聞いています。これまで気合でケアしてきました。私の経験で、役場に地域おこし協力隊が、私はそうだったのですけども、いでもですね、やはりその市民と行政の間を取り持つポジションとしての協力隊なので、外に出て何ぼだというふうに思っていましたし、外に出るためにうちの会社で預かって、アドバイザーだったり、業務の管理を一応させてさせてもらっていたのですが、皆さん御存じかわからないんですけども、全く経費が出てないのですよ。うちが全額負担しています。家賃も電気代も、人的な管理費もゼロです。なのでだんだん正直疲れてきてまして、会社としてやっていますので、駅前の事務所も協力隊事務所になっているのですけれども、駐車場代もそうですが、全額まちの灯台で負担しています。補助金も今、御存じだと思うのですが、一円もいただいてませんので、

〔中面幸人委員「150万も」と呼ぶ〕

もう今、役場から補助金入ってないです。ゼロです、切られましたので。

なので、一方で市民の方から非常に協力隊評判が高くて、定住率もうち高いのですよ。なので、女性ばかりだっというのも珍しいのですが、今後続けていきたいと思ってるんですけど、やはり4名、5名、職員を。一応その会計年度任用職員を預かるということになれば、ちゃんと仕事をしてまちおこしの仕事をして、実績を残すということであればですね、1人は管理責任者と言いますか、必要だと思っていて。そういったところに対して、そろそろ役場もケアしてもらえたらなとは思っています。以上です。

木下孝行委員

ちょっと厳しい意見を言うと思うのですけども。今、スライドを使って話も聞きましたけど、石川さんのほうがまちおこしに対して、今まで地域おこし協力隊も含めてなのか、まちの駅の代表になってからなのか、自分の協力が足らなかった、努力が足らなかったということを私は今、実際、私も足らないと思うのです、厳しいですけど。それでなおかつ道の駅の商品について置くものがないと。まさに置くものがないければ、その運営をする、そこが作っていかないかん。人任せじゃいかんと思います。売上げが下がって、なおかつ、収入を上げないかん時に置くものがないで、そんなこと言っちゃいかんと思います。難しいですけどね。だからそれだけ期待をして、観光連盟からまちの灯台という組織ができて、当初補助金を使いながら運営していくけど、将来は自主的活動で運営していくという基本的な考えの基でスタートしたのがまちの灯台ですよ。補助金が足りないからどうかこうとかじゃなくて、自立して自分たちで経営をしていくというのが基本的な考え方でスタートしたのですから、その補助金を3年に打ち切られているけど、別の形でのふるさと、地域おこし隊の中でも、経費の部分に使われる部分もあったりするわけで、それがなおかつ自分たちの自主的活動で利益を上げて、それを経費にしていけばいいということでスタートした組織ですよ。補助金がどうのこうのとないからというのは、ちょっと私はどうかなと思いますよ。本当、厳しいですけど。ただ求めるのは、やはり先ほどから説明があったように、したいことはあるということですから、やっぱりそれに向かってまちの灯台の代表として頑張ってもらいたいと思うし、なおかつ、この経歴を今見たときに、いろんなところで、アドバイザー的な役割を務めていらっしゃる。非常にいいことだと思いますよ。それで大学の教授までなっている。しかし軸足はどこにあるのかなど。阿久根の観光、いわゆる昔の観光連盟の会長ですから。個人で独立したからといっても、あそこを

担っているまちの灯台の代表が、軸足はどこに置いているのかなとふと思ったんですけど、軸は阿久根にあるんですか。

石川秀和参考人

意見交換をする上で、私の活動の範囲を示しましたけども、日数でいえば、330日阿久根にいますので、軸足としては阿久根です。阿久根のために、ほかの地域も知識を得ている、勉強していると御理解いただけたらと。補助金の話は、その補助金もらっていませんという話をしたかったわけじゃなくて、道の駅、おっしゃられるように、道の駅ですね、コロナであろうが100%、120%、道の駅にお客さんが来るような努力をしているのかといえ、できてないと思います。それは努力していかなきゃいけないなというふうに思っているのですが、地域おこし協力隊のいわゆる、委託業務ですね、地域おこし協力隊を4名、預かっていることに関して、補助金とは言ってないです。要は経費ですね、経費の負担が全額、うちの会社になっているというのがおかしいという話です。もともと会計年度任用職員なので、役場の職員ですし、私どもとしては、年間に何十万か、当然かかる経費を負担しながら、なおかつその、ほっとくわけにはいかないの、当然人をつけて地域おこし活動のミッションを考え、そのミッションが達成されるようにしないとイケませんので、ケアするわけなのですけれども、そこに対して、もう少しどうにかならないかなという話ですんで、それをじゃあ社会的には無駄な経費がかかるので役場に戻せばいいというふうに言う株主もいるんですよ。ただそれだと、もう本末転倒な話になってしまうので、地域おこし協力隊やめたらいいって話にもなってしまいますし、そういう話でもないと思うので、多くくれていることではなくて、妥当なラインで、何とかできないかなと、それに見合うそれぞれ各隊員の活動の成果が出てると私は思っているの、どうかなというお話です。

木下孝行委員

地域おこし協力隊の経費の部分は全くないという話、私なんかの認識で言えば、経費の部分は、地域おこし協力隊の報酬と経費の部分は、私は出ているものと思っていたのですよ。だからそこら辺で、私なんかも確認をしなきゃいけないと思うけど、そんだけの経費が、もし仮に語って、執行部と話をして、執行部が出さないのであれば、株主が撤退しようというのであれば、私も撤退していいと思いますよ。辞めていいのです。市に戻せばいいじゃないですか。私はそれでもいいと思いますよ。

〔発言する者あり〕

もし経費が出なくて、それで、経営的に苦しいのであれば、それは行政と話をして、行政が出さなかったらもう返したほうが私はいいいと思いますよ。ただ、今までの話の中で、道の駅の話も出ましたよね。だから唐津のほうで道の駅に携わっている。それで阿久根の道の駅に対してもそれなりの考えで、そういうのは今まさにその時期に入っているわけですよ。もう協議会も設立して、長島と川内市も協力をして、日本唯一の広域的な道の駅という形で今、動き出して、要望活動も既に3回、4回、国に対してやって、地元の代議士も小里代議士も動いて、建設に向けて国交省の九州地方整備局も、そして国道事務所も設置して、だからそういう中で、これから先はまさにその施設のグランドデザインは描かないかん。川内、長島、協力しながら、どういった物産館にするのかとか、ほかにどういう施設を作るのか、まさに今その議論に入っていくわけですよ。まさにそういうのを石川さ

んもその立場に、行政にお願いしてその協議会にも、その下部の会にも入って、意見を言って、そういった努力もして欲しいなと思います。

白石純一委員長

ちょっといいですか、すいません。この今日の目的は、まちの市街地活性化についての具体的な方法論について、今やっていたいでいることを聞いて、それに対するして意見交換をするということですので、市行政とまちの灯台阿久根との委託、受託関係というのは確かに、うまくいかない部分もあるかと思いますが、それは我々が執行部に対して、一般質問等でもただすこともできますので、今日はその点については置いといて、まず市街地活性化の手法について今日は議論していただければ、質疑していただければと思います。

中面幸人委員

私もそのとおりだと思います。今日は参考人を呼んで、まちの活性化についての話だから、相当、地域おこし隊とか、いろいろな課題もあるみたいだから、また機会をつくってですね、この委員会で話をしたらいいと思いますのでよろしくお願いします。

山田勝委員

委員長、私は、全然、道の駅の問題にさわらんで、いけなくなったのですが、なぜって、道の駅の運営を、赤字を出さないようにちゃんとした発展的に運営してくれればそれでいいのですよ。それでいい。だから、ふるさと地域おこし協力隊の人を、それぞれの課に所属しているでしょ。彼らは僕が何か頼んだりしても、課に頼まないとうまくいかんですよ。あなたじゃなくて。だからその付近はね、執行部は無責任だと思う。だから地域おこし協力隊がそれなりにいろんな形でお手伝いしてくれるとありがたいですよ。いいニュースを持っていろんなことやってくれる。それはやっぱり、執行部が責任持たないといけませんよ。道の駅の経費の中では出せて。その件についてはですね。

それから阿久根の、特にこの前、私は市街地の活性化について一般質問をしたんですけど、一つはホテルの数を、客室の数を聞いたときに、あなたの努力でですね、国民宿舎あったときと同じぐらいのホテルの数、それ以上の数になっているのだそうです。それは非常にありがたいことですよ。ところが、そういうことだったら今、例えばきみよし温泉に行く、どこに行くってということなのだけど、それだけでは、核になる施設が必要じゃないんですかと言って私が議会で提案しているけど、青果市場跡にもものすごい塩湯が出るからあそこを使って、例えば、温泉施設をしたり、とにかくそこを使った観光の核となるようなことを阿久根市がしたほうがいいじゃないですかというふうに僕は言っているんですよ。だから、そういうふうになれば、近くの商店の方々っていうのは案外、そこでそれを基盤にして、商売が活性化する可能性も出てくるし、合わせてもちろん阿久根にいろいろ温泉もありますけど、昔、国民宿舎の温泉に行かれた方々は、不思議とまちの温泉に行かないのですよね、不思議と。だから、野田の温泉に行ったり、出水の温泉に行ったりする。だからそういう意味では、温泉難民が非常に多いのですよ。だから、そういうものをやはり一つの核にしたらいかがですか。温泉を掘る、温泉の泉源を見つけるということだけに1億かかるのですよ。でもここは1億かからなくていいじゃないですかという話をしているのですが。そういう中で、私はあなたが今やっているまちの温泉、ホテルとかなんかやってる中でそれは非常にいいことだけど、どうしてもやっぱり核が必要だなと思ってこう提案してるんですが、いかなふう考えて、そしてまた、御指導いただけま

すか。

石川秀和参考人

もともといわしビルとか、それから塩屋ホステル、あるいはきてん辺りを提案させていただいた理由は、発想の起点はあれですね、グランビューの撤退のときに、新しくちょっと実らなかったんですけど、新しくホテルができるというお話がありまして、そのときにビジネスホテルはあるよと。もしかしたら今度ファミリー向けの、少しいいホテルができるかもしれない。それは世代ごとに60歳以上の方がホテル誘致するために頑張ってもらってということがあって、当時30代、40代前半でしたので、3、40代として、ビジネスホテル、ファミリー向けのホテルがあって、網羅されてないカテゴリー、若者向けのホテルを私たちが担当してやりましょうと、役割分担を考えた結果、簡易宿泊所、ゲストハウスというものを、3、40代の経営者でさせていただきました。そこは、グランビュー跡はちょっと難しかったのですけれども。今も、基本的にはずっと同じ考え方で、阿久根のまちおこしに関しては考えていまして、重複しないように動いているつもりです。新しい道の駅の構想に関しては、もっと関わったほうがいいという声もあるのですが、それは何て言ったらいいのかな、タイミングがあれば全然関わるつもりではあるのですけれども、今、私たちがやっている観光まちづくりの領域は、やっぱり20代から40歳までの領域を中心として、20歳以下かな、高校生ぐらいから40歳ぐらいまでのところの観光活性化に力を入れています。それはなぜかというと、私たちが来る前から、道の駅の利用者層の中心は、やっぱり御年配の方が多くて、そこはある種、要するにそのある程度一定数の成果といえますか、状況がありますので、あえてケアを、お金にゆとりがあればケアすればいいのですが、全くケアができてなかった阿久根の弱点と言える若い世代のところの領域を誰かがやらなきゃいけないということで、やるように努めています。それを踏まえて、先ほどの青果市場のお話なのですけれども、温泉がいいか悪いかという判断は非常に難しく、先ほどまちおこしができてないと申し上げたのですが、私移住して7年になるのですが、雇用促進であったりとか、商業の活性化。若い世代とかには新しいお店がたくさん増えたことによって、出水とか川内に比べて、阿久根いいよねっていう声はいただいたことあるのですけれども、実際に雇用促進でどのぐらい貢献できたかっていうと、やっぱりできてないと思うので、まだまだだなぁと思うのですが、要するにその大事なものは、観光まちづくり戦略というものが指針としてつくられるわけじゃないですか。その中で青果市場の役割がどういうものであって、どういう効果があるかというのが、シュミュレーション上描けるものをやらなければとは思っているのです。生意気な話になるかもしれないですけど、商工観光課とは熱くバトルすることが多いのですけれども、施策があって、まちづくり戦略があって、事業があるわけじゃないですか。こういうグランドデザインがあるからこういう事業、毎年しましよとなるわけですよ。事業というのは、コロナウイルスで出たワクチンみたいなもので、こういう課題があるから、そういうまちにしていきたいからということで、いろんな事業やっていくのですけど。では、この10年、事業やって、何が効いて阿久根がよくなったかっていうことをみんなで考えたときに、出てこないのですよね。効かないワクチンを開発し続けるということをや、やっぱりやったらいけないと思うのですね。これだから私も日頃、自分の会社だけじゃなくて、阿久根のまちにおいても同じことを思うのですけれども。今の青果市場の話も、多分その起爆剤とはワクチンだと思うので

す。本当にそれがどういうふうに作用していくかというのをやはり考えなきゃいけないなと。だから、温泉がいけないということじゃなくて、どんなものができるかをやっぱり熟考しなければいけないし、何かに作用した結果、まちがよくなっていくことをみんなですべてやっぱり100ぐらい考えてからやらなきゃなと。道の駅もそういう意味で本当に、これはもう会頭にも僕は言いますが、道の駅できるイコールまち活性化するのは、それはもう伝説の話なので、九州道の駅連合協議会に入っているのでもよく話をしますが、経営破綻している道の駅もどんどん出てきているのですよ。毎年、明るいニュースで新しい道の駅のできましたって、皆さん言いますが、実はコロナの陰で経営破綻している道の駅は死ぬほどあるのです。だからそういうことも踏まえて、なぜ道の駅ができれば活性化するのかということちゃんとロジックとして説明できる計画案。いやここに商品持ってきたら売れるよと言うのですが、生産者は高齢化していて、脇本から大川に来ること自体がおっくうになって持ってこないという実情がこのまちにはあるので、否定する話ではなく、青果市場は僕はその可能性はあると思っています。さっきも言いましたが、やはり旧港の前にあるので、取っかかりとしてはすごくいいと思うし、やっぱり旧港が、それこそカキ小屋とかそのフィッシャーマンズワープみたいな形で、釣堀もあったり、お買物ができたり、仲買人が選別するようなスペースもあったりすれば観光スポットとしてはすごく映えると思うので、その絡みで温泉があるのはいいと思うのですが、現状としては、すいません、山田さんから詳しく聞いてないので。

山田勝委員

私はね、仏生山温泉の話をおたくから聞いたときに、いろいろ勉強させていただいて、取りあえず、基本にあるものを1個作ったらですね、もうその付近で食堂をする人、旅館をする人、いろんな工夫する一つの流れができて、そこに一つのまちができるんじゃないかというのが一つですよ。だから道の駅の、高速の道の駅を僕は基本的にはなぜそんなことをするのと思っていますよ。絶対お金をつぎ込んで、最終的には阿久根市の財産を全部取っていかないといけないようなことになる可能性がありますよ、あそこは。それぐらい難しいのですね、おたくがよく知っているように。簡単にはいかないと思います。まず品物を寄せ切らんとしますよ。だから、ここはもう我々が考えないといけないことは、市民のお金を持っていくんだよと。陳情した人も、それなりの損益負担をしてくれて僕は言いたいですよ。言いますよ、今から。陳情した人は、それなりにやっぱり責任を持って、私たちもこれくらい出しますよってというようなことでない限りする必要はないですよ。会議所もそんな無責任は許されないと思います。

石川秀和参考人

絶対失敗するって話じゃなくて、成功するように準備するってことです。その従来型の図面を書くって作業だけでは絶対うまくいかないって話で、やらなきゃいけないのであれば、生産者だったりとか、食堂のほうもいろいろ今から、いわゆるハードじゃなくてソフトのほうの準備にしこたま時間がかかるんで、それをどれだけできるかっていうのが僕がいろいろな場所を視察して感じた結果で、ソフトのところに対して時間をかける行政ってのはほとんどないので。

山田勝委員

もう僕はこれで終わります。それは、私は道の駅は、絶対成功させるのは大変だよ、簡

単にはいかないよって、簡単にいくくらい思ったら大変なことになるよと。うまくいかなかったら、行政におんぶでだっこなんですよ。私はよく見えていますよ。陳情はするけど、あとは責任を持たない、陳情した人が。

白石純一委員長

わかりました。いいですか。

〔山田勝委員「だから、よろしく」と呼ぶ〕

川上洋一委員

ちょっと石川さんと、ちょっと意見交換をしたいのですけれど。私は、ずっとマリン関係、海関係の仕事をずっとやっていますので、たしかにちょっと、佐賀の例であったみたいに、私は釣船もしているから、結局お客さんのにも言うのだけれど、熊本県、福岡県、そこら辺の人たちが、ここに船を停めたらどんなにいいのだろうっていうのですよね、地域的に。結局、この海域は東シナ海をどこでも行けると。だから、失礼な言い方じゃないのだけれど、庶民を相手にするか、セレブを相手にするかというビジネスなのです。私はそういうふうに、今、両極端ですけど考えて、心の中で思っています。昔何年か前に私は指宿でチャイニーズを相手にする、大きい2億円ぐらいの釣堀をしようと思った。プロジェクトもつくって、チャイナのマーケティングも全部呼んで段取りしたけど、うまくいったけど、指宿の組合長が変な色気を出したもので私が切ってしまったのです。それまで全部、指宿市もぜひやってくれと、観光のためにもいいと。そういうのを全部組んで、生けすも1億8000万円ぐらいかけて作る見積りもできていたけど、私がそれも全部頓挫させてしまったんです、ある種。私から見ると、今から先、阿久根の人口が減っていく中で、これをどういうふうに甦らせるかと言ったら、もう結局セレブでないと、お金を持っている人を来てもらうというのが1番のスタンスなのですよね。やっぱり車が、例えば2000万円する車に乗っている人は、これお金持ち、一般人からいうと。だけれど、船の中で2000万と言ったら小ボートですよ、億ですから。2億、3億するのが船ですから、そういうのを持っている人たちがごろごろいるわけですよね。そういう人たちを阿久根に呼んで、やっぱりそういう人たちが、阿久根を潤してくれる。あそこで飯食おうか、あそこに泊まろうか、どこで何しようかというふうなのをやっぱりこの、私はそういうふうに思って。逆に、場所丘公園もあるし、子供たちはそこで遊べる。女房と子供はそこで遊べる。旦那は自分の船で釣りに行けるというスタンスのビジネスを阿久根市はやっていったほうが本来はもうほかにないんじゃないかと。私はそう思っているけど、どうですか。どう思います、その間に。

石川秀和参考人

その世界が全くわからないので、何といふかな、私が意見するべきではないっていう、すいません、率直な回答ですが。唐津もヨットハーバーがかなり大きなハーバーで、高級な船は泊まっています。ホテルも阿久根よりは、佐賀県2番目の都市なので、1泊10万円近いようなホテルもあると言えばあるのですけれども、佐賀県がこれに対しても40年ぐらいやってらっしゃるのですけども、リニューアル計画を決めたのは、やっぱりそのあれなのですよね、全体のマーケットを通して、少な過ぎる。特に、コロナでインバウンドが冷え込んでしまった、また極端に利用者も減ったと思うのですが、唐津市でこのヨットハーバーに来るための道路があるのですけれども、ここに入ったことがある人はほとんどいな

くて、駅から歩いて来られる距離ですけど、まず認知されなかったです。それで、この右下の計画になったのですが、ヨットは続けるのだけれども、フィッシャーマンズワープみたいに、バーベキューが食べられるような用途を加えたり、お買物ができたり、簡単なスポーツ、ヨット以外のマリンスポーツができる場所に、改修しようということに至りました。川上さん言われるように、本当にそのまちの指針として、セレブを受け入れるんだと、奄美みたいな、何かそういう用途を変えていくのだというのは僕は全然反対ではないですけども、イワシビルを何で始めたかといいますと、ホテルの中で1番、クレームが出にくいのがゲストハウスなんです。結局宿泊代金上げると、料理もクレームが出やすいし、スタッフも教育しなきゃいけないし、全部のレベルを高くしなきゃいけないのですよ。なので、阿久根、ヨットの場合、セレブのお客様が阿久根に来たときに、泊まれるホテル、満足していただけるレストラン、その辺も戦略的にはやっていかなきゃいけない。今はなくて、それこそ、最近、伊地知シェフにお会いして、フランスで出されてる、将来阿久根に戻って来ようと思ってるって話を聞いて、すごうれしかったですけど、そういうレストランができたらずね、今度はヨットのセレブの方が、伊地知さんのレストラン行くとか、そういうストーリーもできてくると思うのですけれども。現状としては、セレブの方が来たとして、バランスよくほかのコンテンツがいいものが提供できるかっていうのが、ちょっと。

川上洋一委員

ちょっとセレブっていっても、普通の人よりも少しお金持ちくらい。上はきりが無いけど、普通に言ったらもう船というのは、2、3000万円はするわけですよ。だから、そのぐらいの船を持てる、ある程度社長クラスの人たちが常に阿久根に遊びに来られると、私のお客さんでもやっぱり、熊本で会社を2つも、3つも持ってる人がしょっちゅう来るのですよ、阿久根に。ロックインに泊まっていて、遊んでいて。週末になると遊んで、すつと帰っていくのですけれども、うちにも来るのですけれども。そういう人たちが来て、お金を落とせるように、未来的には作っていかないと、現状ではもう年をとった人間が増える一方ですから。実際言っても市報を見ても、死人の欄はすごく多く、出生の欄はすごく小さいわけですよ。そういうところでやっぱり何か付加価値をつくらないと。やっぱり、出水市、川内市どこも一緒だと思うのです。出水がでかいていうのは結局、野田と高尾野が、出水市に合併したからでかくなっているもので、実際的には出水市もそんなにでかくはないと思うのですよね、私は。だから、何かやっぱり海をうまく利用して、できればその旧港辺りを、それこそ山田さんが言うように、それはそれでいいじゃないかと。それに金を使うのではなく、現状でやっていて、それが物足りなくなったら、それを考えましょうと。だから、やっぱり核となるその旧港辺りをいかに整備して行って、皆さんが遊べるようなところになっていくというのは、結局、旧港からだったら番所丘も近いし、いろんなところもできるからそういうふうには、この未来的には作っていかないと、このままでは本当にアウトになるんじゃないかと思います。

白石純一委員長

旧港の活用については石川さんも提案されていますので、同じお考えだと思いますので、御意見でよろしいですか。

1時間過ぎましたので、あと、質問があらわれる方をちょっと、ほかにある方いらっしゃ

いますか。

〔「まだたくさんあるんじゃない、休憩入れて」と呼ぶ者あり〕

1人ですので、続けさせてください。

竹原信一委員

実際の話、市街地、実際、市街地でも何でもないような状態になっていると。観光のまちづくりとか言ったって、誰が観光に行く余裕があるのかという状況がある。実際、A Z行くとたくさん人が集まるわけですよ。結局のところ、暮らしが第一で、そこに一生懸命してるような、必死ですがりついているような状況の中で、観光に行く余裕はないというのが阿久根市民の状況、そして恐らく周囲の方々も似たようなもので、A Zには行くけれども、遊びに行くほどの余裕はないよという感じだと思います。皆さん行くところを探しているわけですよ、行き場がないわけですよ。お金がない、そしてこの先、収入が増えていく見通しも低い、行き場所を求めて、そして時間を過ごすところ、そういったところその隙間といいますか、いったところをもう探してそこに集中するというようなことでないといけないのじゃないかなと。ニーズがまず先に調査といいますか、人々は何を求めて、どこに行く可能性があるのかと、そういったところを、統計的にといいますか、それを先にすることが大事で、起爆剤をここで起爆してみた、あっちで被曝してみたいなことを幾らやっても、それはもう外れが大きいばかりだと思いますよ。私たちはその市民の暮らしをもっとしっかり見て、動向などを見て、そこに本当に相手が、皆さんが人生を過ごすのに意味があるなと思えるような場を提供するという、本当に相手のためにということをしかり考えてやっていくのでないと、やっぱりうまくいかないと思います。例えばA Zは、とにかく金を儲けようということじゃなくて、利益を第2において、そして皆さんの買物バスなんかも出して、その結果、皆さんがあそこを利用して運営をやっていく、暮らしの支えにもなっていると。こういう発想で、ほかのところも、やらなきゃいけないと思います。たくさん、何かあれもしてみよう、これもしてみようじゃなくて、皆さん先ほど言った、成功をしかり計算の上で、やらなきゃいけないと思うのですよ。そうしたときにそういうデータといいますか、どういうふうにしたら集計といいますか、ポイントというのはどっから情報を集めたらいいと、今までの御経験からお持ちでしょうか。

石川秀和参考人

今、竹原さんが言われたことは、すごい僕も共感するところが多いのですけれども、そうなのです。僕は、だから発表していることというのは、基本、小さな観光の話をしているのです。逆に言うと、その小さな観光の話しかしていないので、あんまり自信がないのですけれども、体験型観光というのも、いわゆるJTBみたいに観光バス50人で行くような観光ではないのではないのですか。1回につき1家族が、1日2組ぐらいしか対応できなくて、それが集積することで、例えばみかん狩りしている家族がいたり、海遊びしてる人がいたり、竹細工体験しているような人がいたりという、小さな集積の観光を、僕は阿久根は目指すべきだと思ってるのですけれども。観光業を始めるっていうよりはですね、やはり小さな挑戦が、新陳代謝ですね、それが活発であるまちではあってほしいと思うのです。例えば、最近のヒットの挑戦ですと、ぼんたんサイダーみたいな、ぼんたん農家さんがちょっと挑戦して、新しくぼんたんサイダーを作りました。それは、ぼんたんサイダーを作ったのだけれども、実は観光のまた新しいコンテンツとして、本人は意識していない

のだけれども、一つの魅力になっているわけです。なので、観光に対して何かをしようという意識がなくてもいいのですけれども、このまちの中で、小さな挑戦に、御自分が今やってる商売の中で、ただただ先細りしていくのではなくて、できる範囲の小さな挑戦でいいので、それが生まれるようなまちではあって欲しい。最近でしたら、うちの店から独立しましたが、寺島の近くに小さな小さなコーヒースタンドをつくりましたが、ああいうものの集積で僕はこの観光地でもない、いわゆるこの竹原さんが先ほど言いましたけど、市街地でもないようなこのまちに魅力をですね、ちょっとずつ増やしていけたらいいなど。じゃあどれだけ観光客が増えるのですかという話になれば、結局、万人は増えるかもしれないけれども、現状としては、具体的な数字っていうのはイワシビルで7部屋です。寝室が7部屋あって、年間で900人利用者がいましたと。土日祝だけの稼働率でいったら、100%以上ありましたと。それはロックインと全く違う客層の人たちが来て、夜御飯を食べれないので周辺の飲食店さんに3000円から5000円。900掛ける3000円から5000円のお金落ちましたというのは、データとしては残るわけなんですけど、その小さなコーヒースタンドの来店者がどれだけ、年間売上げがどれだけっていうことを1店舗だけの話で見ると、じゃあどれだけ経済効果があるのですかということになるのですが、僕も最初から経済効果の話はあんまり重点を置いてないのです。このまちで暮らしていく上で生きがいを感じながら、幸福度の高い暮らしをしていくということが基本です。それが観光と兼ねられたらいいよねということです。高齢者の方であったとしても、サツマイモを作っているような農家さんが、時々、サツマイモ掘り体験をする、孫みたいな子供たちに、お金もちゃんともらうし、観光にもなるけど、仕事の延長線上で観光コンテンツを提供できるみたいな事が増えたらいいなってことでやっているの、何ていうかな、それに価値がないじゃないかって言われるとそれまでの話なんですけど、今僕らがやっているこのまちでやっている観光まちづくり戦略は、どっちかというところとそっちの世界でやっています。

竹原信一委員

今の、そのとおりであるのですけれども、やっぱり数値的な予測というのを、出していないと、やっぱり単発で当たったか、外れたか、みたいになっちゃうので。

[石川秀和参考人「大きな施設はそうですね。」と呼ぶ]

そうそう。やっぱりそこをどうにかして数値化する方法を考えていくべきでしょうね。

白石純一委員長

意見でよろしいですか。

[竹原信一委員「いいです」と呼ぶ]

石川秀和参考人

青果市場跡地とか、道の駅に関しては、多分、僕、商工観光課のときに仕事ぶりを見ていて、いつも不思議だったのですが、いろいろなところからデータを引っ張ってきて、一応利用者数の予想を出すじゃないですか。あれはほとんど意味がないと思っているのですよ。

[竹原信一委員「そうですか」と呼ぶ]

根拠があつてないような話だなと思っていて。道の駅はまだ、同一線上の高速道路のあれがあれば、数字が出るのかもしれないのですけれども。やっぱり、何て言ったらいいのだ

ろうな、さっきも言いましたけど、全く新しいものをつくる場合は、阿久根独自の初めて作るものなので、リサーチと言いますか、類似施設の数字をとっても、あまり根拠がないのではないかなとは思っています。それよりかは、例えば、さっき言っていた温泉の利用者というものを、阿久根で今どのぐらいの利用者があるかというものは、きみよし温泉とぼんたん湯さんしか確かな数字がないので、その人数を足した場合に、きみよしとぼんたん湯、潰れるじゃないですか。そうすると何か別の問題が起こってきそうで、非常に難しいですけど、例えば、ではさっき言っていた釣り人も使えるような公園であればデータがあるのかな、阿久根に年間どのぐらいの人数が来て、そのうちの20%が利用した場合、このぐらいの利用者数になるとかは、数字が出せるかと思うんですけど。すいませんちょっと回答になってなくて申し訳ありません。

〔竹原信一委員「何か調べましょうか」と呼ぶ〕

白石純一委員長

はい、ありがとうございます。

ほかに質疑がないようですので、最後に石川参考人から何か、最後に皆さんに言いたいことがあれば。

石川秀和参考人

はい、ありがとうございました。

また直接、こういう場ではなく、直接呼び出していただければありがたいです。僕も迷いながらやっていることも多々ありますし、今年、大川中の利活用の計画も、一応皆さんの市民の意見を取りまとめてつくらなきゃいけないので、その辺に関してもアドバイスをいただけたらなと思っています。よろしく願いいたします。

白石純一委員長

ありがとうございます。

本日は、参考人におかれましては、大変お忙しい中、本委員会に御出席いただきまして心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

本日、お伺いしたこと、意見交換したことをこれからの審査に生かしてまいりたいと思います。誠にありがとうございました。御退席いただいて結構です。

〔石川秀和参考人退室〕

白石純一委員長

本日の参考人招致に関連した意見を一旦集約したいと思しますので、委員から何か御意見があれば、お聞かせください。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

いいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

なければ市街地の活性化に関する所管事務調査を一旦中止します。

また、先日の委員会でも、木下委員や中面委員からもあったんですけども、視察先の検討は、御承知のとおり、今、コロナ禍の感染状況を見て判断しなければならないと思っていますので、もうしばらくお待ちください。感染状況によっては、視察に行けないまま調

査項目の報告をしなければならぬ可能性もありますので、所管事務調査においては施設に行かずにですね、今日のような調査方法、調査項目の何々について所管課あるいは参考人を呼んで意見を聞くなどして調査したいという意見がもしありましたら、私まで御連絡ください。

ほかに委員の皆さんから何かありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

なければ、以上で産業厚生委員会を散会いたします。

(散会 午後3時28分)

産業厚生委員会委員長 白石純一